

群 教 セ	F 08 - 01
	平 29. 265集
	生徒指導

自分の考えを主体的に伝え合う グループ学習の工夫

—役割分担シートを活用した古典指導を通して—

特別研修員 藤井 絵美

I 研究テーマ設定の理由

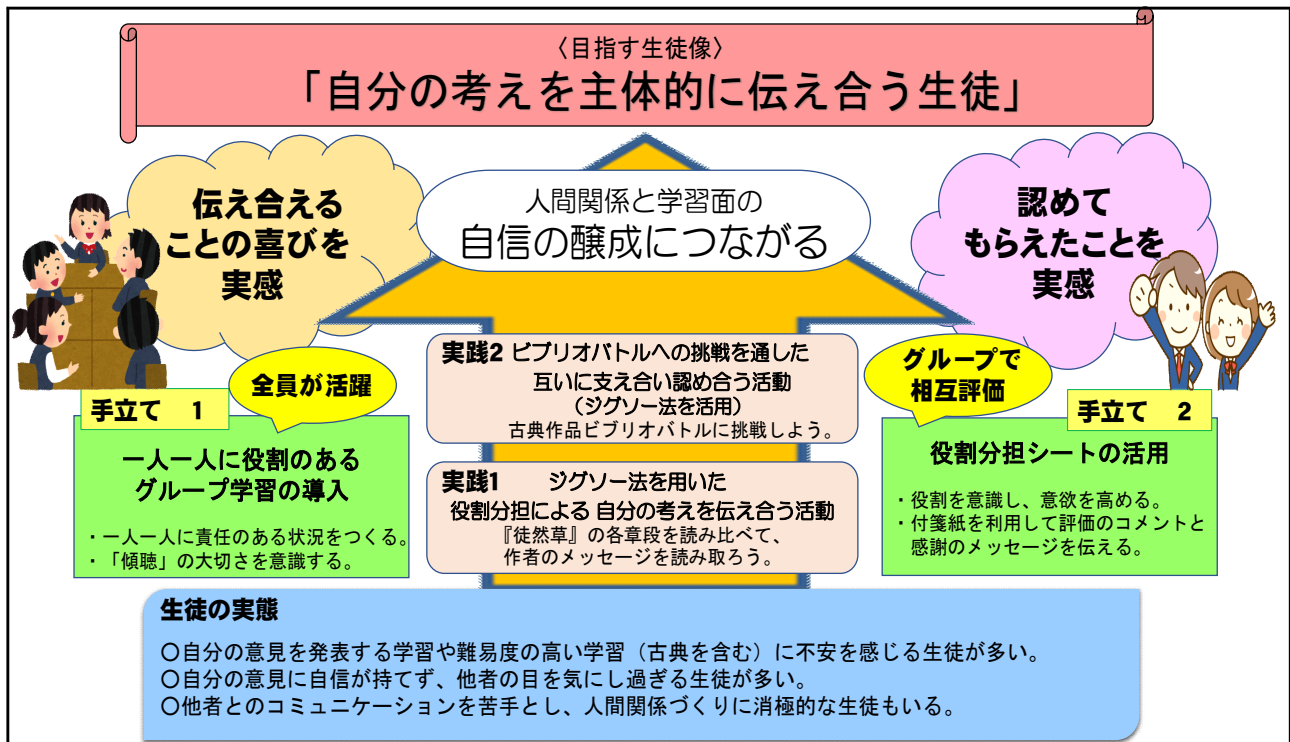
生徒指導提要（文部科学省）には、「生徒一人一人が生き生きと学習に取り組み、学校や学級・ホームルームの中での居場所をつくること」「生徒一人一人に自己存在感や自己有用感を味わわせること」「教科において生徒指導を充実させる」等が述べられている。また、群馬県高校生ステップアップサポート事業実施要領（平成29年度）では、『主体的・対話的で深い学び』の視点に立った授業改善の推進を共通テーマとして、生徒が主体的・対話的に学習できるような授業の工夫・改善を求めている。

所属校の1年生2クラス（81名）に対して平成29年4月に自作のアンケートを行ったところ、8割を超える生徒が不安を抱えていることが分かった。具体的には「学習面に不安を持つ」生徒が突出していた。特に「自分の意見をまとめて発表する学習形態」に不安を感じる生徒が多く、自分の意見を発表することを「ぜひやってみたい」と回答した生徒は5%であった。また、生徒は難易度の高い学習の一つに「古典」をあげ、95%が苦手と回答していた。

以上のことから、意見を伝えることへの抵抗感を払拭し、難易度が高いと捉えている古典の苦手意識を克服することをねらいとして、自己の役割に責任を持って他者と関わるグループ学習を通して、互いの意見を伝え合う力を高めていきたいと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

意見を伝えることへの抵抗感を払拭し、古典の苦手意識を克服するために、全員が活躍できるグループ学習を取り入れた。

手立て1

- 自分の考えを伝え合えることの喜びを実感できるような、役割のあるグループ学習の導入
 - ・一人一人に役割を与えて、責任のある状況をつくる中で、自分の意見を伝え、他者の意見を傾聴することが自然の流れでできるようにする。

手立て2

- 互いに認め合えたことを実感するための役割分担シートの活用
 - ・一人一人が役割を意識し、意欲を持って取り組むために役割分担シートを活用する。
 - ・役割分担シートの活用によって、認めてもらえたことを感じられるようにする。

古典作品を読み比べて作者のメッセージについて読み取ったり、古典作品についての理解を深めたりする中で、自分の考えを持ち、他者に伝えられるように、まずは個人で考える。その後、ジグソー法を活用したグループ学習を行い、全員が自分の役割を意識して話し合う活動やビブリオバトルに挑戦する。役割分担を明確にし、意欲を持って取り組むために役割分担シートを活用する。役割分担シートに付箋紙の貼付欄を設け、生徒同士の相互評価を渡し合う活動や、感謝のメッセージを渡し合う活動を取り入れ、伝え合えることの喜びと、互いに支え合い認め合えたことを実感することを目指す。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「手立て1」の役割のあるグループ学習を導入したことにより、意見発表への抵抗感がかなり薄れた結果となった。意見発表について、4月の調査では「ぜひやってみたい」と回答した生徒は5%であったが、10月の調査では「以前からやってみたい気持ちに変わりはない」「以前はやりたくなかったが、やってみようと思うようになった」と回答した生徒が合わせて54%となった。
- 「手立て2」の役割分担シートの活用により、全員の生徒が役割を意識して、責任を持って意欲的に取り組むことができ、主体的に伝え合っていた。生き生きとした表情で取り組む生徒が多く、意見発表をすることができた達成感を味わっていた。また、付箋紙を用いて相互評価をすることで、互いに支え合い認め合えていることを実感できている様子が見られた。
- 4月の調査では、古典に対して95%の生徒が「苦手嫌いである」と回答していたが、10月の調査では「苦手意識がある」と回答した生徒は46%まで減少した。古典を苦手科目としない生徒が半数を超え、学習面の不安を払拭し、自信の醸成につながった。
- 教科指導における生徒指導の充実を意識して取り組んだ結果、学校行事等において、互いに協力し、声を掛け合い、いたわり合うなど、クラスのまとまりを感じさせる雰囲気が見られた。このような生徒の変容は、SHRやLHRの指導だけでは得られなかったと考える。

2 課題

- 意見発表に抵抗を持つ生徒はまだ半数近くいる。どの生徒も抵抗感なく他者と関わり、意見を伝え合えるようになることを目指して、「手立て1」の役割のあるグループ学習を継続していきたい。その際、毎回同じ形式で取り組むのではなく、生徒の実態を見極めながら、徐々にスタイルを変えた新たな取り組みを考えていく必要がある。
- 「手立て2」の役割分担シートについても、生徒の実態に合わせて、生徒が主体的に取り組めるものとし、徐々に自由度の高い役割分担シートになるように工夫・改善を行うことが必要である。
- 実践では全員の生徒が楽しみながら取り組めたものの、半数近くの生徒は「古典」に対する苦手意識を持ったままであった。生徒全員の苦手意識を克服するためにも、人間関係と学習面における自信の醸成につながるよう、生徒指導を充実させた古典の授業改善を継続し、自分の考えを伝え合うグループ学習を取り入れていきたい。

実践例

1 単元名 「古典作品ビブリオバトルに挑戦しよう」(第1学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、古典作品について、他者と対話しながら興味を広げ、意見を伝え合うことができるように、ビブリオバトルに挑戦するものである。復習と予習を兼ねた学習活動であり、生徒が古典に親しむことにつながると考える。また、プレゼンテーションに挑戦することで、効果的な意見の伝え方について思考し、発表する力を身に付けることをねらいとする。そして、ディスカッションの要である質問役に挑戦し、傾聴の大切さを認識できるようにする。さらに、全員が活躍できるようにするため、グループ学習を取り入れ、役割分担シートを活用する。自分の役割に責任を持って、自分の意見を伝えたり、他者の意見を傾聴したりすることで、互いに認め合える関係を築けるようになると考えられる。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想した。

目標	古典作品の内容や作品成立の背景、後世に与えた影響等について調べたものを用いて、ビブリオバトルに挑戦し、自分の意見を伝える力と、他者の意見や他者からの情報を傾聴する力を高める。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品に興味を持って意欲的に学習に取り組んでいる。 ・意見を伝え合う活動に意欲的に取り組んでいる。
	話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割に責任を持ち、自分の意見を伝えることができる。 ・他者の意見を傾聴することができる。
	読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品の内容や情報を得て用いることができる。
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品を文学史の視点から理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持った古典作品ごとにグループになり、ビブリオバトルのプレゼンテーションの内容について話し合い、原稿を作成する。(『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『宇治拾遺物語』『枕草子』『徒然草』のグループに分かれる。) ・グループ内で予行練習を行う。
課題把握	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品ビブリオバトルに挑戦する。(様々な作品を担当した人が集まる新たなグループで実施する。前時のグループで話し合った内容をもとに、新たなグループの人たちの前で互いにプレゼンテーションを行う。他者のプレゼンテーションを傾聴し、質問役は質問をし、ディスカッションをする。プレゼンテーションを相互評価する。)
まとめ	第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンプ本同士のビブリオバトルに挑戦し、観戦する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全3時間計画の第2時にあたる。事前に夏休みの課題として、古典作品の紹介文を個人で考えており、それを持ち寄って、前時にグループ学習を行い、発表原稿とプレゼンテーション資料を作成している。本時は、ビブリオバトルへの挑戦を通して、自分の意見を伝える力と、他者の意見を傾聴する力を高めることをねらいとし、次の二つの手立てを具体化した。

手立て1

○ 自分の考えを伝え合えることの喜びを実感できるような、役割のあるグループ学習の導入

- ・一人一人に役割を与えて、責任のある状況を作る中で、自分の意見を伝え、他者の意見を傾聴することが自然の流れでできるようにする。

手立て2

○ 互いに認め合えたことを実感するための役割分担シートの活用

- ・一人一人の役割を意識し、意欲を持って取り組むために役割分担シートを活用する。
- ・役割分担シートの活用によって、認めてもらえたことを感じられるようにする。

4 授業の実際

(1) 手立て1

「自分の考えを伝え合えることの喜びを実感できるような、役割のあるグループ学習の導入」

前時のグループで作成した原稿と発表用資料（図1）を用いて、新たなグループでプレゼンテーションを行った。ジグソー法を活用し、新たなグループのメンバーには、すべて異なる作品を担当した人たちが集まるようにした。



図1 発表原稿・発表用資料

前時のグループで作成した原稿を発表する役割を果たすことが第一の目的であり、順番を決めてプレゼンテーションを行うこととした（図2）。発表役以外にも、役割分担として、質問役、評価役を割り当てた。他者のプレゼンテーションを傾聴した上で質問役が質問をするようにし、ディスカッションを行った（図3）。ディスカッションの要は質問役であることを伝え、傾聴が重要であることを意識して取り組むようにした。事前に質問例を「お助けメモ」として配布しておいたため、質問例を活用している生徒が多くいたが、ディスカッションの形式を学ぶことはできた。



図2 プレゼンテーション



図3 ディスカッション

(2) 手立て2 「互いに認めて合えたことを実感するための役割分担シートの活用」

役割分担シートと付箋紙を活用して、各々のプレゼンテーションについて互いに評価し合った。発表の良かった点や気になった点を評価コメントとして付箋紙に書き、役割分担シートに貼り付けるようにした。事前に評価の観点「お助けメモ」を配布したので、評価コメントをしっかりと記述していた。コメントを渡し合う活動を通して、互いに認め合うことができたと考える（図4・5）。

授業の終わりに授業の振り返りとプレゼンテーションの自己評価を行い、その際に、周囲の人の協力があったことにも目を向けるようにし、他者の支えを意識し、感謝のメッセージを付箋紙に書くようにした。書いたものを渡し合い、役割分担シートに貼り付け、まとめた。（図6）。



図4 相互評価(付箋紙利用)

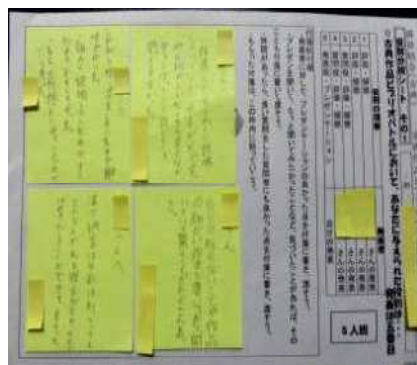


図5 役割分担シートその1 相互評価

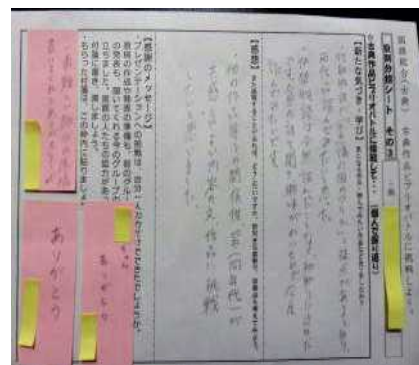


図6 役割分担シートその3
自己評価と感謝のメッセージ

生徒の感想

〈手立て1について〉

- ・ 少人数だと発表しやすいと思いました。班の人が自分の発表をしっかりと聞いてくれたので良かったです。
- ・ 人前で話すのがあまり得意ではなかったので、この機会ですしだけ自信ができました。
- ・ 自分の意見を言うだけではなくて、聞いて学ぶことの楽しさと大切さを学びました。

〈手立て2について〉

- ・ 自分の発表にたくさんの評価をしてもらい、自信が持てました。
- ・ 自分の話したことに反応してもらえるのがうれしかったです。

〈全体を通して〉

- ・ 発表を通して、読みたいという意欲を持てました。作品にもっと深く触れてみたいと思いました。
- ・ またこのような機会があったら、たくさんの資料でしっかりといろいろなことを調べたいです。
- ・ 次の機会があれば、聞いている人の目を見て発表したいです。
- ・ 今回は原稿があったからできたようなものなので、次はなくてもできるようにになりたいです。
- ・ とても楽しくできたので、またやりたいです。班で発表することで、クラスの仲も深まった気がします。

参観者の感想

〈手立て1について〉

- ・ 小グループでの活動であることにより、友人からの評価をすぐ得ることができ、喜びを実感していたように思う。
- ・ 伝え合うことの楽しさや難しさは確かに感じていたように思える。グループだからこそ、コミュニケーションがとれていた。

〈手立て2について〉

- ・ 付箋紙にコメントを書いて発表者に渡すことで、発表者は嬉しそうにその付箋紙を受け取る姿がいくつもの班で見られた。認め合っていたと思う。
- ・ 役割分担があることで安心する生徒もいたと思う。また、プリントにより自己達成感も得られたのではないかな。

〈全体を通して〉

- ・ 調べたことを報告するにとどまっている生徒もいたようなので、“自分で考えること” 自体をもっと積み重ねていく方が良いのではないかな。
- ・ 授業に出席していた生徒の表情が生き生きとしていて、とても良かったと思う。

5 考察

古典作品ビブリオバトルへの挑戦は、教師が期待した以上に生徒は意欲的であり、活動を楽しんでいた。意見を伝え合うことの抵抗感を払拭し、苦手意識を持つ古典に親しむために良い学習活動となった。

「手立て1」の役割のあるグループ学習の導入により、生徒たちは自分のやるべきことを明確に意識して、自分の役割に責任を持って取り組んでいた。自分の役割を積極的に行うことが、意見発表への抵抗感を減らすことにつながり、プレゼンテーションやディスカッションに対して積極的に取り組むことができた。また、傾聴することの大切さを、自分の役割に責任を持って活動する中で気付く生徒が多く見受けられた。

「手立て2」の役割分担シートの活用では、自分の発表に対して評価役から評価コメントをもらえる期待が、発表役として自分の考えを伝えようとする意欲を向上させた。発表後は達成感や認められたことを実感していた。また、感謝のメッセージを貼付する欄を設けたことで、周りの人の協力があって発表できたことに気付き、互いに支え合っていることも意識し、付箋紙に書いて渡し合う生徒が多く見られた。

ジグソー法を取り入れたグループ学習によって、多くの人と関わる中で他者の意見を傾聴する意識が高まり、互いに認め合う活動となった。実践を通して、意見発表や古典に対する苦手意識を克服できた生徒が半数以上となり、授業以外でもクラスの雰囲気はとてよくなった。

本実践は、多くの生徒が楽しみながら意見発表に挑戦できる取組となり、生徒も教師も共に達成感や満足感を味わえるものであった。課題に対して一生懸命に取り組むことで、「自分にもできる」という自信を付け、「もっとこうすればよかった」「次はこうしたい」という主体的な目標を持つようになった。参観していただいた先生方の指摘にもあるが、発表内容や発表の仕方等には課題がある。生徒が主体的に学ぶようとする意欲を更に高めるために、徐々に新たな課題に挑戦し、ステップアップした授業づくりに努めていきたいと考える。今後も、人間関係づくりと学習面における自信の醸成を目指していきたい。